

環境アセスメント・モニタリングのあるべき姿

— 汽水域生態系モニタリング手法研究会の研究成果報告 —

* 谷岡 仁・小串重治・中島 拓・飯山直樹・中西 敬・鎌田磨人・岡部健士
(徳島大環境防災研究センター・汽水域生態系モニタリング手法研究会事務局)

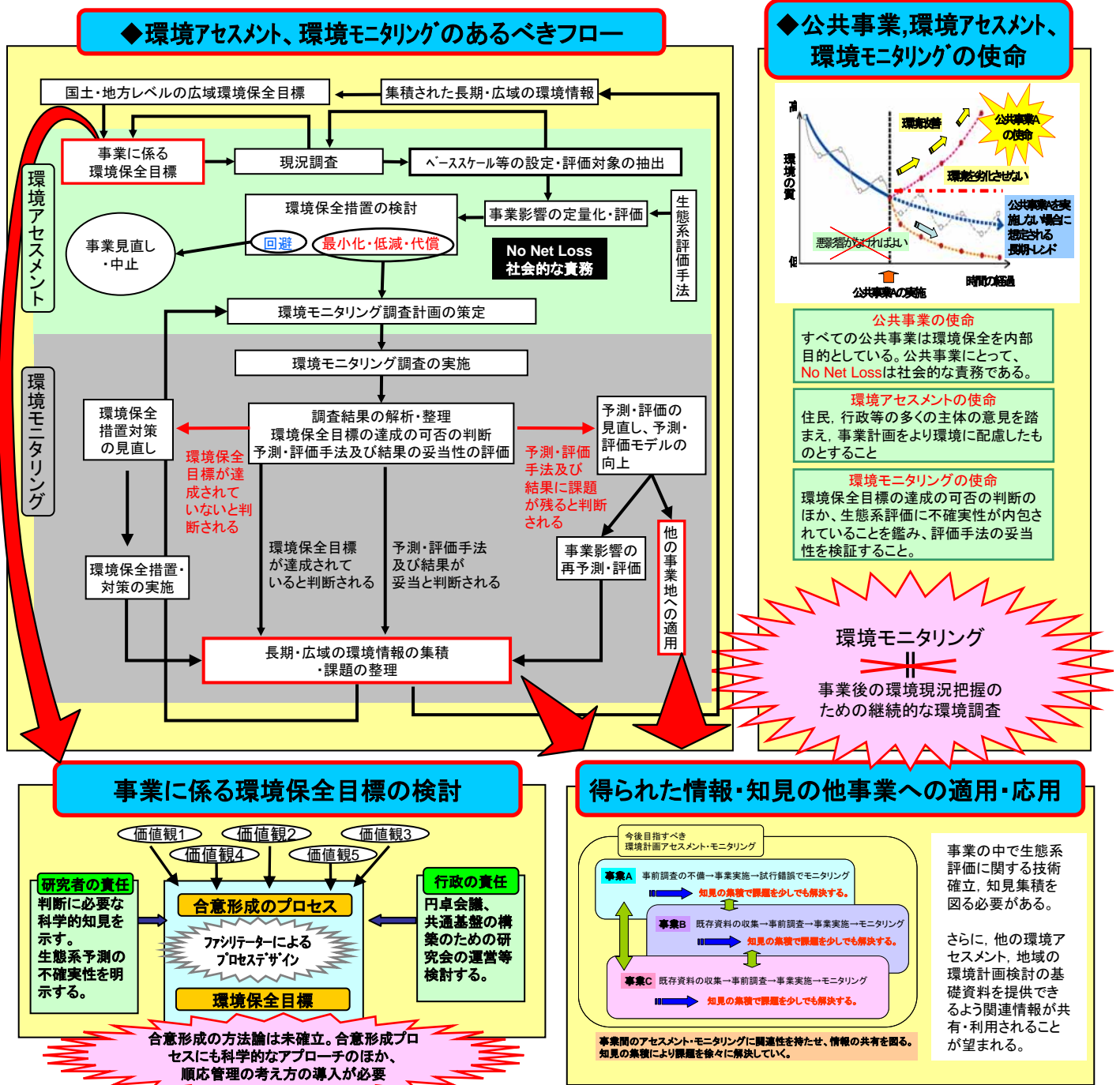
背景・課題

汽水域生態系評価手法の検討に先立って、環境アセスメント・環境モニタリングのあるべき姿を明確にする。

調査方法

吉野川河口干潟に橋梁を建設するとする想定で、「必要な環境アセスメント・環境モニタリングはどういった内容か？」についてヒアリングを行い、その結果を集約・一般化した。

調査結果: 環境アセスメント・モニタリングのあるべき姿とは……



まとめ

1. 公共事業、環境アセスメント・環境モニタリングの区分・あるべき姿を明確にしたが、その一方でわが国の環境アセスメント・環境モニタリングの多くがあるべき姿から離れている現状にある。
2. あるべき姿の実現に向けては、『事業に係る環境保全目標を合意形成プロセスを通じ作成』もあわせて行う必要がある。